CASBEE 新築［簡易版］　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

1-1 建物概要

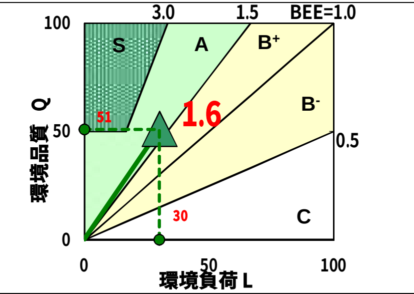
建物名称	リストレジデンス藤沢本町	階数	地上3F　地下2F
建設地	神奈川県藤沢市花の木5429番1	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	196　人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760　時間/年
建物用途	工場, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月　予定	評価の実施日	2013年2月12日
敷地面積	3,179 ㎡	作成者	株式会社 安宅設計
建築面積	1,316 ㎡	確認日	2013年2月13日
延床面積	4,596 ㎡	確認者	株式会社 安宅設計

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

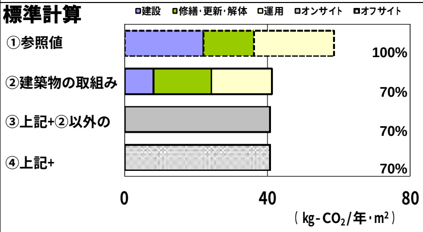
BEE =1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



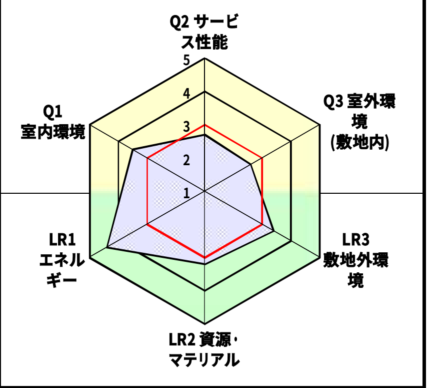
2-2 ライフサイクルCO_2（温暖化影響チャート）

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです　(kg-CO_2/年・㎡)

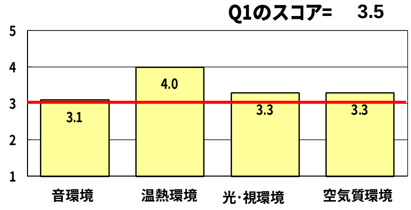
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



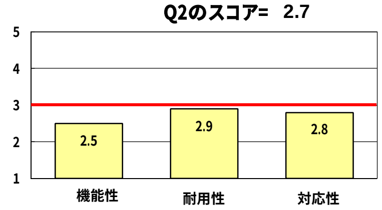
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

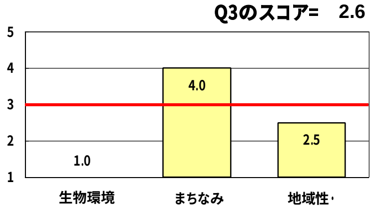
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.5



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.7

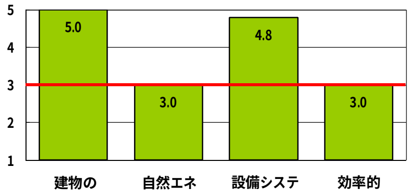


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.6

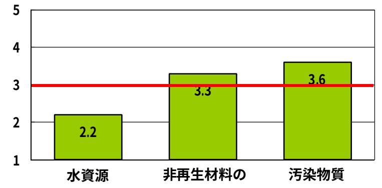


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

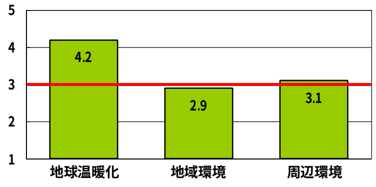
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.4



3 設計上の配慮事項

総合

・形態意匠に変化をつけヒューマンスケールを損ねないような外観とし、周囲の植栽との調和を図りながら、周辺への圧迫感を和らげるような建築計画とした。
・住宅性能表示基準における劣化等級3を確保して、躯体材料耐用年数への配慮を行い、断熱材にはノンフロンのものを採用することで、オゾン層破壊や地球温暖化に対し配慮した計画とした。

その他

Q1 室内環境

・天井裏・下地・仕上げ・家具類等、Ｆ☆☆☆☆の材料で施工することによりシックハウス対策に配慮した。
・窓を大きくし昼光を多く取り入れられるよう配慮し

Q2 サービス性能

・「住宅の品質確保の促進に関する法律」の評価項目のうち、"劣化の軽減に関すること"において最高等級を確保する方針としている。

Q3 室外環境（敷地内）

・住居系用途地域において、隣地樹木を考慮して建物高さを抑え周辺環境への圧迫感を軽減し、周囲との調和を図っている。また、常緑樹と落葉樹を混在させた自然林としての山の再生を図っている。

LR1 エネルギー

・住宅性能表示基準「5-1.省エネルギー対策等級」における等級４とした。
・潜熱回収型給湯器を採用。

LR2 資源・マテリアル

・ハロン消火剤を一切使用しない計画とした。
・断熱材にはA種吹付けウレタンフォームやA種ポリスチレンフォームを採用し、オゾン層破壊や地球温暖化に対し配慮した計画とした。

LR3 敷地外環境

・屋外照明に関して、広告物照明は設置せず、適正な範囲で計画して外に漏れる光に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される